

睡足軒

新座市野火止1-20-12

国指定天然記念物平林寺境内林に建つ睡足軒。大茶人でありながら「電力の鬼」という異名をもつ松永安左工門(耳庵)の屋敷地でした。



ここに注目！ 3つのポイント



① 床の間の円窓
円窓からのぞく木々の緑は喧噪とした日々を忘れさせてくれます。

② お洒落な格子
繊細な模様は必見です！



③ 茶室『耳庵』
2つある茶室のうち、格が高い茶室です。耳庵が好んで利用したといわれ、それにちなんで、この名がついたそうです。



他にも…

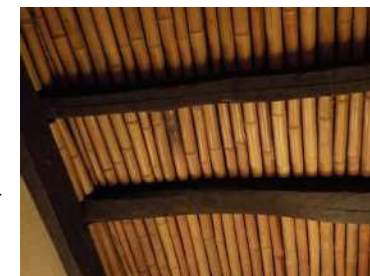


台所には古い柱が残されています。たくさんの穴があき、数回の改装のあとが見て取れます。

ここはもともと馬屋だったそうです。

天井は竹が敷き詰められています。

この上の屋根は、現在トタンが使用されていますが、当時は茅葺屋根でした。



部屋の中央には囲炉裏があります。

現在はイベント等の時にだけ火をいれるようです。

室内の壁です。
当時のものが残されており、よく見ると細かくひび割れています。



室内には、平林指月(平林寺の前ご住職・野々村玄龍師)の作品が飾られています。



これらの作品からも、松永安左工門が平林寺と親交が深かったことがうかがえます。

また、松永安左工門も平林寺に仁王像等を寄進しているそうです。夫婦そろってこの地を大変気に入り、現在は安左工門と妻・一子も平林寺の墓地で眠っています。

豆知識

睡足軒が建つ平林寺の林は、
なんと・・・
約1万㎡(9,379㎡)!!!

元々江戸時代には上野国高崎藩・松平右京大夫家の陣屋がありました。そこへ松永安左工門が飛騨地方の田舎家をこちらへ移築したそうです。昭和46年に松永安左工門が亡くなった後は、平林寺が所有し修行僧の寮として使われていました。その後平成14年に平林寺から新座市へ無償貸与され現在に至ります。



2015年8月 訪問
埼玉モダンたても学生レポーター
日本女子大学文学部 竹田いぶき